

和倉温泉創造的復興プラン

和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会

令和7年3月

はじめに ...

令和6年1月1日のお正月、沢山のお客様が宿泊される中で発生した能登半島地震は、最大震度7を観測し、和倉温泉でも震度6強を観測しました。まちも宿も大きな被害を受け、避難所である小学校には収容想定人数400名の所に住民800名、お客様1200名の2000名が避難しました。

お正月が明けても、日々余震が続く中で被害箇所が拡大していくのを目にしながら何もできず、3ヶ月間水も出ない、そんな中で2月8日に旅館、商店を中心とした若手経営者による「和倉温泉創造的復興ビジョン」策定会議が発足します。

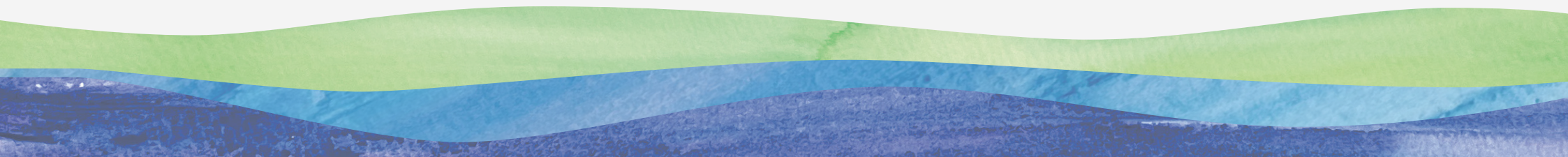
策定会議では、1000年に一度と言われる災害を1000年に一度のチャンスにすべく、旅行形態の変化によるお客様の減少に加え、働き方改善、IT化、環境・省エネ、旅館と街の関係、奥能登と和倉温泉など、今までの課題解決も見据えたビジョン策定、そしてまちづくりがスタートしました。

そしてこのプロジェクトは、我々復興まちづくり推進協議会のメンバーで完結するものではなく、先の世代へとバトンを渡していける“持続可能なプロジェクト”にする事が大切だと認識しております。

復興には10年以上かかると思いますが、本計画発表の後には行政(国、県、市)との役割分担や、個々の事業者の復興に向けた動き、そして復興を支えていただける企業を募り、連携を具体的に進めていくフェーズに入ります。

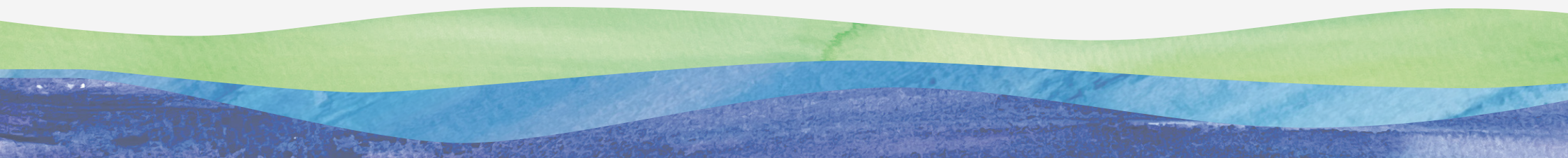
まったく新しい街にするのではなく、昔からの温泉を中心とした本来ある価値を最大限に活かしながら、観光客、住民、携わる事業者の方々と、環境を大切に、地域として誇れる和倉温泉と一緒に創りましょう。

和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会
代表 多田 健太郎



CONTENTS

1. 和倉温泉の創造的復興を目指して
2. 復興ビジョンから「復興プラン」へ
3. 復興プランで大切にしたい
未来の和倉のおもてなし
4. 復興プランにもとづく取り組みと、
これからの関わり方
5. 課題と向き合う
これからのまちのデザイン



1

和倉温泉の創造的復興を目指して

令和6年能登半島地震からの復興を目指して、
和倉温泉再生のためのビジョンを定めました。

能登の里山里海に抱かれた名湯・和倉温泉

能登半島の中央部、七尾湾に面した和倉温泉は、開湯1200年の歴史を誇る名湯です。北陸で唯一の"海から湧き出す温泉"として、古くから多くの湯治客で賑わってきました。また、その周辺には2011年6月に日本ではじめて世界農業遺産(GIAHS)に認定された「能登の里山里海」が広がります。和倉温泉では、こうした豊かな地域資源を活かし、食や設え、そして「人の温もり」を大切に、心を尽くしたおもてなしでみなさまをお迎えしてきました。



令和6年能登半島地震と和倉温泉

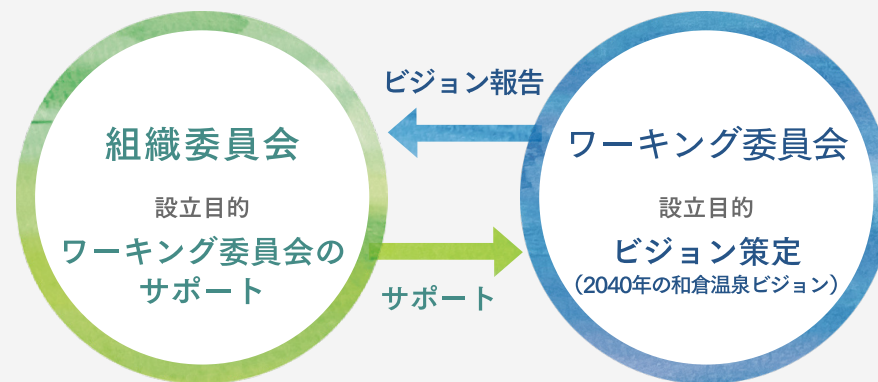
令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、震度6強の激しい揺れが和倉温泉を襲いました。地域の象徴ともいえる七尾湾の護岸が崩れ、地盤の隆起や沈降によって建物が傾くなどの被害が発生。温泉街も大きな痛手を受け、多くの建物で外壁のひび割れが生じたほか、温泉配管の破断や水道の断水といった深刻な被害が相次ぎ、すべての旅館が休館を余儀なくされました。



地域の思いをひとつに 「和倉温泉創造的復興ビジョン」を策定

観光のハブとして機能してきた和倉温泉の復興は、能登半島全体の復興にとっても大きな意味を持ちます。そこで旅行者はもちろん、このまちで暮らす人にとっても魅力的な新たな和倉温泉の姿を描き出すために、次代を担う地域の若手経営者を中心とする「ワーキング委員会」が発足。長年、和倉温泉を支えてきた経営者による「組織委員会」のサポートのもと、復興に向けたビジョンを策定しました。

「和倉温泉」創造的復興ビジョン策定会議



ビジョン策定までのプロセス

いち早い復興を目指し、令和6年2月7日にはワーキング委員会の事前会議を開催しました。そこから第1回「ビジョン策定会議」を開き、短期間で集中的に勉強会や議論を重ねました。その結果、発災から約2か月後にあたる令和6年2月29日には、2040年を目標年とする「和倉温泉創造的復興ビジョン」が策定されました。地域の思いを結集したこのビジョンを指針とし、和倉温泉の復興に向けた取り組みが、現在も着実かつ迅速に進められています。

会議名	開催日	内容
ワーキング委員会事前会議	R6年2月7日(水)	温泉復興に対する思いの共有
第1回 創造的復興ビジョン策定会議 第1回 ワーキング委員会	R6年2月8日(木)	策定会議の組織構成、スケジュール、 温泉復興に対する思いの共有
第2回 ワーキング委員会	R6年2月13日(火)	復興アイデアの整理、方向性共有
先進事例 Web 勉強会①	R6年2月13日(火)	『長門湯本温泉観光まちづくり』
第3回 ワーキング委員会	R6年2月21日(水)	まちづくりコンセプト、基本方針
先進事例 Web 勉強会②	R6年2月22日(木)	『鳥羽温泉観光と漁業先進事例』
先進事例 Web 勉強会③	R6年2月23日(金)	人吉市豪雨被害における 『なりわい再建支援補助金活用』
先進事例 Web 勉強会④	R6年2月26日(月)	『下呂温泉の観光DX先進事例』
第4回 ワーキング委員会	R6年2月28日(水)	ビジョン(案)についての協議
第2回 創造的復興ビジョン策定会議	R6年2月29日(木)	ビジョン(案)報告

復興ビジョンのコンセプト

能登の里山里海を“めぐるちから”に。和倉温泉

いのちがめぐり、人がめぐる能登の里山里海。自然の循環がもたらす恩恵と、
人が集い行き交うことで生まれるちからと、和倉温泉の生業を共鳴させ、
能登に暮らす人、働く人、訪れる人全てが幸せになれる和倉温泉を再生します。

6つの基本方針 / コンセプトに基づき、下記の6つの基本方針を策定しました



景観

歩きたくなる
動線や空間を作る

穏やかな七尾湾の風景、情緒ある温泉街、食などの観光資源をつなぎ、まちの回遊性を高めます。

- ・海沿い、まちなか歩行動線
- ・夜間景観、湯けむり情緒
- ・建物まちづくり景観ルール
- ・周遊サイクリングロード
- ・拠点、ゾーン整備
- ・飲食店土産物店 など



連携

能登の里山里海の
交流拠点となる

ヒト・モノ・コトを通じて能登の里山里海を価値化し、新たなビジネスや交流のハブとなります。

- ・能登のコンシェルジュ機能
- ・観光コンテンツ連携
- ・スポーツ拠点
- ・じわものブランド化
- ・奥能登への二次交通
- ・里山里海保全活動 など



生業

多様で洗練された
湯治を提案する

和倉の湯・食・おもてなし力を活かし、心とからだの両方をリフレッシュできる場所になります。

- ・宿泊の多様性、長期滞在
- ・泊食分離、旅館規模適正化
- ・温泉湯の利活用
- ・美食とウェルネス
- ・スポーツ合宿との連携
- ・マリンスポーツとの連携など



生活

温泉文化を
未来につなぐ

住む人、働く人、子どもたちが温泉地で暮らし、働き、学ぶことを誇りに思い、幸せを感じるまちをつくれます。

- ・ジビックブライド
- ・暮らしやすさ
- ・子どもの温泉文化教育
- ・まち全体のおもてなし
- ・ワークライフバランス
- ・ウェルビーイング など



共有

循環経済の温泉地
モデルを実現する

最新技術も活用した資源循環システムを確立し、持続可能な温泉地モデルとして新たな価値を生み出します。

- ・サーキュラーエコノミー
- ・地元調達率向上
- ・観光DX・情報共有
- ・共同送迎EXバス
- ・再生可能エネルギー
- ・ゼロ・ウェイスト など



安全

安全安心の
防災を強化する

令和6年能登半島地震の経験から学び、安全かつ強靱な対策を施し、全ての人々に安心を広げます。

- ・高台避難場所
- ・スポーツ施設活用
- ・自己水確保
- ・旅館の避難場所・備蓄所
- ・まちごとBCP
- ・ユニバーサルデザイン など

2

復興ビジョンから「復興プラン」へ

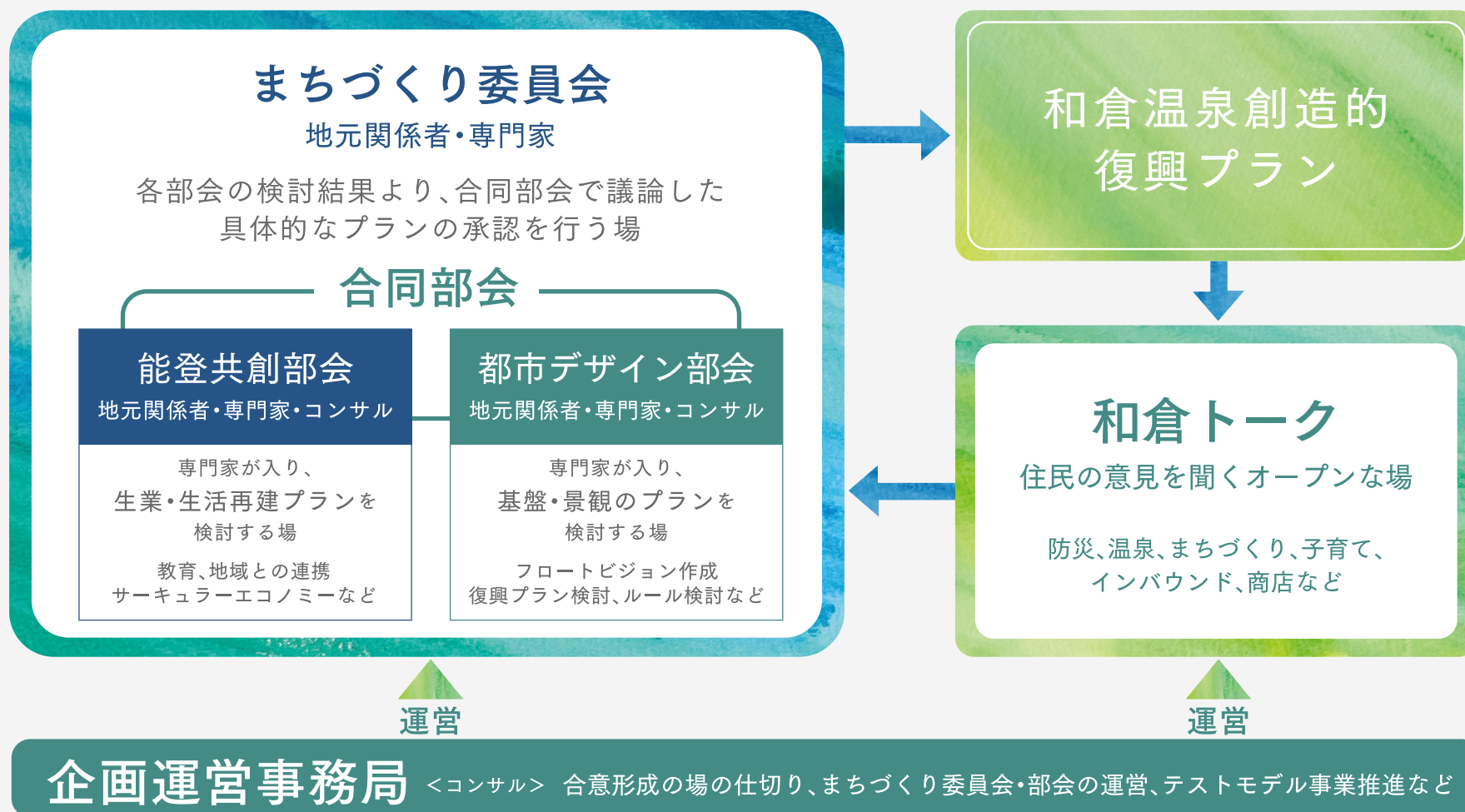
復興ビジョンをより具体的な取り組みへとつなげていくために、
復興まちづくり推進の「たたき台」となる復興プランをつくりました。

和倉温泉創造的復興プランとは？

A.地域主導でつくった復興まちづくり推進の「たたき台≠行政計画」です

今後は、本プランをたたき台として行政機関や地域との継続的な対話を行い、
個々のプロジェクトの具体化に向けて取り組んでいきます。

〈復興プラン策定のための検討体制〉



〈 復興プランの構成 〉

コンセプト

\ OUR VISION /

能登の里山里海を“めぐるちから”に。和倉温泉



6つの基本方針

景観

歩きたくなる
動線や空間を作る

生業

多様で洗練された
湯治を提案する

共有

循環経済の温泉地
モデルを実現する

連携

能登の里山里海の
交流拠点となる

生活

温泉文化を
未来につなぐ

安全

安全安心の
防災を強化する

大切にしたいこと

\ OUR PLAN /

Check to P14 ~

ひとのやさしさ
おもてなしの心開湯1200年の
歴史と文化にふれる朝日と夕日を
ひとつ空の下で海も山も、
安全安心に親しむ新しい和倉のまちを
浴衣でそぞろ歩き地域に根ざし
グローバルにひらく

取り組み

復興に向けた取り組み

Check to P21 ~



都市デザインの構想

Check to P29 ~

和倉温泉創造的復興プラン策定までのプロセス

「合同部会」と「和倉トーク」の両輪で、対話を重ねながら和倉温泉創造的復興プランを策定していきました。

合同部会 | 復興プランの意見交換を行う場



2024



和倉トーク | 住民の意見を聞くオープンな場



07 11/25

第6回 合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

- 主要なプロジェクトについて
- 共創部会での取り組みとの連携



08 11/28

第2回
まちづくり委員会

- 中間とりまとめについて



09 12/23

第7回 合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

- まちづくりルール・オーラルストーリー調査報告
- 災害に強いまちづくりについて



10 1/27

第8回 合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

- 和倉で大切にしたいシーン
- 来年度の体制と進め方・サステナブルなまちづくりWS



11 2/26

第9回 合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

- 未来のおもてなしシーンと取り組みについて
- 次年度の各プロジェクトの進め方



12 3/13

第3回
まちづくり委員会

- 最終的な復興プランのとりまとめについて

2025



05 11/15

第5回 和倉トーク

- 「海外へ向けた和倉の観光を考える」



06 12/21

第6回 和倉トーク特別編

- 和倉温泉創造的復興プラン
中間とりまとめについて



07 1/16

商店連盟トーク

- 復興プランの進捗報告と意見交換会



08 1/18

和倉町会トーク

- 復興プランの進捗報告と意見交換会



09 2/16

和光会トーク

- 復興プランの進捗報告と意見交換会

能登共創の取り組み

地域が一丸となって和倉の復興を実現するために、プランの策定段階から、大人から子どもまでさまざまな人々と共創の取り組みを進めてきました。

和倉トーク／地域との丁寧な対話の積み重ね

オープンな場での住民との対話

6月以降、誰でも参加のできる和倉トークを開催し、復興に向けて様々なテーマで意見交換した内容を復興プランに取り入れました。



地域で活動する様々な団体との対話

地域で活動をする商店連盟・町会・和光会などの団体とも意見交換を行い、復興に向けて協働する体制づくりを進めています。



シビックプライド(地域に対する誇りや愛着)の醸成

中学校トーク／2024.10.4

中学2年生が体育館で石崎、和倉、能登島の未来について議論。遊び場についての斬新なアイデアから、道路整備・自動運転車の導入といった具体的な提案まで、多様で個性豊かな意見が飛び交いました。



小学校トーク／2024.10.23

小学5・6年生が和倉の魅力や未来について活発に意見交換。人の良さ、わくたまくん、海などを活かしたアイデアや、高校・大学、路面電車の提案まで、柔軟な発想で議論が繰り広げられました。



新しい和倉の滞在モデル実証事業

復興めぐる市／2024.11.3

お祭り会館を会場に、和倉温泉の旅館で不要になった食器や備品をフリマ形式で販売する「復興めぐる市」を開催。そのほか一本杉通り商店街や能登島で開催されたイベントと連携し、累計で1045名が来場しました。



能登との連携(和倉HUB構想)

オーラルヒストリー調査／2024.9.3-5

東京都立大学・川原研究室と協働し、和倉温泉や七尾市内など、地域に縁のある方11名へのインタビューを実施。地域の思いを汲み上げました。



サステナブルな和倉エリアの創出

熊本・長崎への脱炭素先行事例視察・報告 ／2024.10.15-17

脱炭素まちづくりをリードする企業として、熊本の九州産交ランドマーク株式会社、長崎のリージョナルクリエーション長崎を視察しました。また、持続可能な観光地を目指して、阿蘇内牧温泉、黒川温泉を視察し、意見交換をしました。



新しいことが生まれる場づくり

まちづくり Drinks

「なにか一つでも新しい目的を生み出す」を目的に、和倉のまちの魅力と将来について、地域の人々で自由に語り合いました。今後も継続的に実施を予定しています。



3

復興プランで大切にしたい 未来の和倉のおもてなし

これから、どんなまちをつくっていきたいのか。
それを考えるための足がかりとして、未来の和倉温泉で提供したい
「未来のおもてなしシーン」を探っていきました。

未来のおもてなしシーン創出のために 地域の資源と課題を整理

先人たちが守り伝えてきた豊かな里山里海、そして北陸有数の温泉地としての歴史・風土・文化的価値を継承しながら、未来の和倉のおもてなしシーンを描き出すために、地域の人々が残したい「和倉の姿」と、解決すべきまちの課題を整理しました。

地域の資源＝人々の心の中にある和倉の姿

七尾中心街・能登島・
石崎・田鶴浜・中島
とのつながり



海と山との
親しい関係性



伝統が育んだ
人・おもてなしの心



湯治場として
重宝されてきた
優れた泉質の温泉



温泉街としての
夜のにぎわい



源泉周辺の歴史・
文化的価値

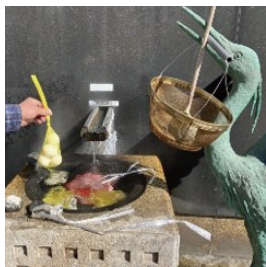


解決すべき課題

温泉文化の
次世代への継承



多様で洗練された
湯治の提案



能登の交流拠点
としての機能強化



循環型経済の
温泉地モデル構築



歩きたくなる
まちのデザイン



安心安全を支える
防災力強化



まちと人の変化を探り、 和倉ならではの「おもてなし」を再定義

古くから地域を知る人々へのオーラルヒストリー調査を通じて、かつての和倉温泉の姿を明らかにするとともに、そこから現在に至るまでのまちと人の関係性の変化を辿っていきました。ここで得た気づきが、「未来のおもてなしシーン」を描くためのヒントとなりました。

かつての温泉街としての姿

— 湯元を中心とした温泉街の形成 —

昔は渡月庵の入江が海で、昭和天皇お手植えの松のあたりが、船着き場だった



昔は今のようにお湯を遠くまで引っ張らず、お湯を汲みやすい湯元付近に木造の旅館が集まっていた



マストツーリズムの発展に伴う変化

— 和倉温泉での過ごし方の変化 —

(旅行者が和倉のまちなかを)
下駄を履いて歩いてたよ

お客さんはお財布を持たずに、
まちを散策していたね

団体客が来たら、
大きな旅館でお客さんを割り振ったり、
お見送りでテーブルを出したり、
なんてことも

旅行者が気軽に和倉のまちを出歩く仕組みがあった
住民も旅館も、まちぐるみで旅行者をお迎えしていた

— 旅館とまちの関係性の変化 —

サービスが旅館内で完結
するようになってしまった

温泉に関わる団体と、
それ以外の住民とのあいだで、
すれ違いがあった

昔は、旅館の客室係が
お客さまを連れて飲食店に行っていた。
そして店側がチップを渡していた

冬は地元民が旅館に
集まっていたが、
観光の大型化によって
利用しにくくなった

旅行者が和倉のまちを出歩かなくなる
旅館と住民、店の関係が希薄になり、ミゾも生まれる？

— 旅館の経営・業態の変化 —

昭和30年代から
コンクリート造の旅館が増えて、
みんな海沿いに引っ越して大型化。
人気が出た

まちとの関わりは、
主に旅館の主人が担っていた。
女将は組合で決まった話に、
口を挟めない雰囲気があった

お客さま一人ずつに丁寧に
挨拶していく接客スタイルが
旅館のスタンダードに
なっていった

かつてのまちの中心地に
駐車場が増え、まちを歩いていても
情緒が感じられなくなってしまった

旅館が社会や旅行者のニーズに応じて和倉温泉を成長させる
その一方で、歴史的な温泉「街」は失われていった

— 交通の変化 —

昔は陸路はなく、
船で乗り継いで
能登島や奥能登に行った

陸路が整備されたことが、
かえって七尾の衰退に
つながったのでは

道路網の発達などにより、陸路からの観光が中心に

— 山との関係性の変化 —

お寺の釣り鐘の下で遊んだり、
椎の実などを採ったり、
椿の花で首飾りをつくったり……

ため池もあって
フナ釣りをした

遊園地だったり、
競馬場だったり、
そのあと射撃場にもなった



山はかつて遊び場＝懐かしい思い出の場所だった
現在は山との関わりが希薄になっている

「役に立つ過去を活かし、懐かしい未来を描く」

人々のなかにある和倉の懐かしい思い出や、地域の思いをかたちにして、未来のおもてなしシーンを描き出します

未来の和倉温泉で実現したい、6つのおもてなしシーン

これからの和倉温泉で大切にしていきたい価値や体験を、6つのおもてなしシーンとして描き出しました。これを実現するのは、地域で暮らす私たち自身です。ひとり一人がそれぞれの立場で、できることがきっとあります。さまざまな取り組みや関わり方を通じて、より魅力的な未来の和倉温泉を、ともにつくっていきましょう。



ひとのやさしさ、おもてなしの心

温泉地としての伝統が育んできた、人のやさしさとおもてなしの精神。たとえば、すれ違う誰もが、大人から子どもまで親しく挨拶をしてくれる。雨が降ったら、商店や旅館が軒先を貸してくれる。そんなやさしさとおもてなしの精神を、これからも大切にしていきます。

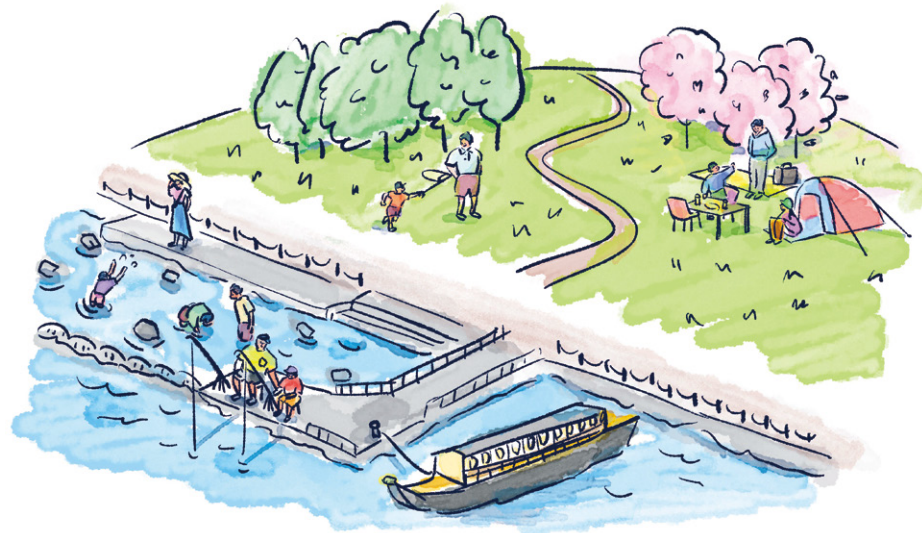
開湯1200年の歴史と文化にふれる

温泉たまごづくりや手湯を楽しめる「湯元の広場」や、“湯の神”をまつた「少比古那神社」。こうした場所で、楽しみながら歴史や文化にふれる体験を通じて、和倉を訪れる人と地域の人々が一緒になって、「海の温泉」としての伝統を未来へと引き継いでいきます。



おはようからおやすみまで 朝日と夕日をひとつ空の下で

七尾湾に差し込む朝日と夕日を眺めながら、一日のはじまりと終わりを感ずる。「海の温泉」ならではの、和倉らしいシーンのひとつです。クルージングやボート、サップ、ジョギング、ヨガ、釣りといったアクティビティを気軽に楽しめる環境づくりを進めていきます。



海を楽しみ、山に親しむ 人と自然の安心・安全な関係性

先人たちは海と山のつながりを大切にしながら、まちと自然の親しい関係性を築いてきました。これからも海辺や山道を適切に整備し、その楽しみ方もしっかりとお伝えすることで、誰もが安全・安心に自然とふれあえるまちづくりに取り組んでいきます。



新しい和倉のまちを 浴衣姿でそぞろ歩き

温泉で心と身体をほぐしたあとは、下駄に浴衣でランコロンとそぞろ歩き。歓楽街の灯りが気になれば、ちょっと一杯ひっかけていく。温泉街としての情緒を活かしながら、自動運転EVバスなどのモビリティも充実させることで、気軽に散策できるまちをつくっていきます。

地域に根ざし、 世界にひらかれた温泉街へ

国内外から和倉に訪れた、さまざまな人との出会いから、きっとワクワクするような新しい未来やアイデアが見えてくるはずです。多種多様な人々が集える交流の場をつくるとともに、食や自然、おもてなしの心といった和倉の魅力を、積極的に世界へと発信していきます。



おもてなしシーンの実現に向けて、取り組みたいこと

	まちとして	個人(個社)として
ひとのやさしさ、おもてなしの心	店先で団欒できる人の集まる空間 商店・店先などの軒先を雨宿りスペースに 明かりの灯るWelcomeな空間 住民や観光客が訪れる、雰囲気のある花壇やベンチ 全員があいさつしてくれるまち お店の店員による、まちの歴史や見どころ案内 海や畑で採れた、野菜や魚などの物々交換	雨宿りできるスペースづくり おもてなしの心の共有のため、自分が体験したい話を車内で共有 各旅館で玄関に情緒のある灯り、エントランス休憩ベンチの提供 荷物を運ぶ(連泊客など)他旅館との連携 他の旅館の温泉に入浴可能 各旅館が玄関での着物で送り迎え、お見送り
開湯1200年の歴史と文化にふれる	温泉の聖地巡り、温泉卵の作り場増設 登録文化財を増やす&清掃 四季・歴史を大切にしたいライトアップや飾りつけ 温泉商品の開発(温泉饅頭など)、温泉を利用した発酵食品の開発 温泉感謝祭の復活 湯之谷信仰の醸成 温泉の入り方の開発 湯めぐり札集め まち歩きおすすめガイドマップなどを作成	ロビーなどの空きスペースに、昔の写真、歴史写真、パネル、クロスなどを説明付きで飾る ライブラリー増設 日帰り温泉 医師監修の湯治プラン
おはようからおやすみまで 朝日と夕日をひとつ空の下で	朝日・夕日を素敵に眺める場所の整備 田んぼ遊び、磯遊び、山遊び、山菜採り Sunriseポート、Sunsetヨット、Sunsetランニング、サイクリング 通りに名前を付ける(サンセットロード、サンライズロードなど) いいだこの保護活動 時間帯ごとの過ごし方提案、ヨガ WEBカメラ、お天気 限られた時間ごとの限定ドリンク開発	旅館、レジャー会社が釣りやヨットその他の海のレジャーを楽しめるもの 散歩のススメ ヨガ 限られた時間ごとの限定ドリンク開発 サンセットクルーズ、サンライズクルーズの商品化 夕日の映えスポット案内 QRによるWEBカメラの情報案内
海を楽しみ、山に親しむ 人と自然の安心・安全な関係性	市道の草刈り整備 寿苑の前の浅瀬のような、ちょっと触る海、水などがあるとよい クワガタ、カブトムシなどを取りやすい場所整備 水が入ったり抜けたりする、子供遊びスポットの整備 タケノコ掘り、松茸狩りができる山の整備 桜が山川に咲いていた公民館の周り整備 ランニングコースやトレーニングに使えるような山側のアクティビティ整備	休憩スポットとして利用してもらう ゴミ拾いへの参加 地元の人が率先して海や山を楽しむ
新しい和倉のまちを 浴衣姿でそぞろ歩き	湯の町センターの外観を少しきれいに 古い建物やまち並みを残すようにする 渡月橋、石垣、渡月庵は和倉唯一のもの 車が通る場所と歩行者が通る場所を分ける 神社までの歩く道、海際から参道へいける道 2時まで、わくたまオリジナル車両を走らせる 地域の人も乗れるEVバス、EVバスで和倉の端から端まで周遊	色浴衣の貸し出し 歩道からでも海が見えるエントランス 旅館が路面店でカフェ
地域に根ざし、 世界にひらかれた温泉街へ	発信スポット、スタジオ、ラジオステーションの整備 食文化を発信できるように 地元のものを食べたいという気持ちを満たすような 感動できる体験を作り、発信してもらう お酒の試飲、食べ歩き整備 食文化の発信をしやすくする	自分たちが大切にしたいことを明確にする 地元の歴史や文化ことをもっと知る 子どもたちとまちを探索してみる 大切な資源を大切にだとわかってくれる人におすそ分けする

4

復興プランにもとづく取り組みと、 これからの関わり方

復興プランを実現するためにさまざまな取り組みがスタートしています。
今後は地域や関係企業などを巻きこみながら、
より具体的なプロジェクトを推進していくことで、
復興まちづくりを力強く進めていきます。

具体的なプロジェクトの推進に向けて

復興プランの具体化・実現化に向けて、今後は主に6つのプロジェクトを推進していきます。

まちまるごとBCPプロジェクト

宿泊施設の避難所活用のための強靱化支援

地震の被害により、防災基準を満たさないなどの理由で避難所として使えなかった宿泊施設を、今後は避難所として活用するために、施設の強靱化や、まち全体で災害対応及びBCP(事業継続計画)の方針、また被災の記憶を風化させないための取り組みを防災訓練などと紐付けて実施することを検討していきます。

■ 検討項目

- ・避難所となる宿泊施設の改築を含む耐震化に対する取り組み
- ・インバウンド客を見据えた観光施設などの避難所機能強化
- ・まちまるごとBCPなど、まちとしての対応のマニュアル化
- ・七尾市の防災計画や地域づくり協議会・町会と連携した平時からの体制づくり
- ・合同の防災訓練や避難所での体験のアーカイブ化など、次世代に被災の経験を伝える取り組み
- ・次なる被災観光地などへの支援体制の検討

おもてなしの都市デザインプロジェクト

復興プランを地域全体で取り組むための「和倉温泉観光地域づくりガイドライン(仮)」の策定へ

和倉温泉創造的復興プランを地域全体で取り組むための「和倉温泉観光地域づくりガイドライン(仮)」を策定するためのリサーチと検討を実施します。

■ 検討項目

- ・和倉温泉全体の魅力向上に向けたまちづくりのルール化
- ・景観・おもてなしガイドラインの策定

● 景観デザインの方針

例)和倉らしいまち並みを実現するため、建物の色調・外観の統一
例)看板・照明などのデザイン基準を設定し、風情ある温泉街の形成

● おもてなし基準の選定

例)観光客にやさしい案内サインの設置検討(多言語対応)
例)地域住民と観光客の交流を促進するプログラムの検討

- ・観光アクティビティの充実に向けた取り組みの検討

次世代和倉温泉の収益力向上プロジェクト

面的な観光地としての復興プランに沿った宿泊施設の再建への支援

地域のなかでも、施設ごとに被災状況はバラバラです。そこで被災状況に合わせて6つのフェーズを用意し、適切な支援・伴走を行っていきます。それぞれのフェーズごとに復興プランに沿った計画策定支援(伴走支援)を提供し、早期復旧と地域一体となった復興を両立します。

■ 検討項目

● 伴走支援のステップ

- ① 宿泊施設のフェーズと課題を丁寧にヒアリング
- ② 観光地域まちづくりガイドラインの策定を並行して計画策定を支援
- ③ 専門家チームが各宿泊施設に伴走し、計画を策定

● 6つのフェーズごとに個別の支援を実施

- ① 現状評価・分析フェーズ
- ② 基本方針策定フェーズ
- ③ 資金調達・改修計画策定フェーズ
- ④ 改修準備フェーズ
- ⑤ 施工・設備導入フェーズ
- ⑥ 運用開始・持続可能化フェーズ

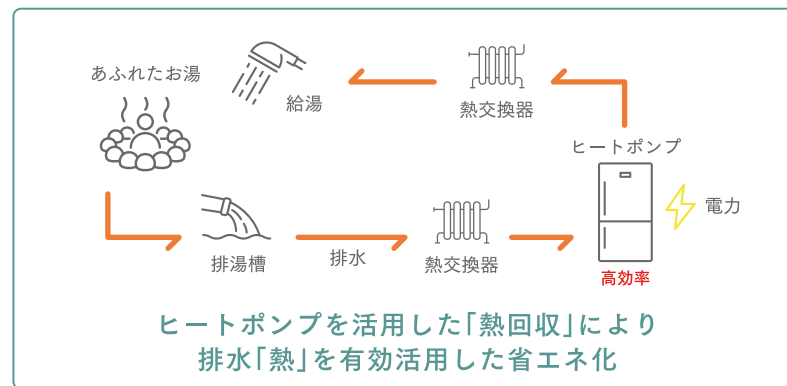
脱炭素エネルギーによる地域連携プロジェクト

地域資源を活かした脱炭素化に向けたエネルギー／地域連携の仕組みづくり

和倉温泉の貴重な資源である温泉のエネルギーを無駄にすることなく、再エネ活用することが重要です。限りある資源を有効活用することで、地域全体のエネルギーコストの軽減はもちろん、カーボンニュートラルの促進にもつなげることで、先進的な観光地となることを目指します。

■ 検討項目

- ・配湯管の面的な耐震化に向けた取り組み推進
- ・限りある温泉の流量モニタリングのためのデジタル機器導入などの取り組み
- ・温泉排熱等の再エネ活用など、ハード・ソフトと両面の取り組みの実施



具体的なプロジェクトの推進に向けて

復興プランの具体化・実現化に向けて、今後は主に6つのプロジェクトを推進していきます。

サステナブルツーリズムプロジェクト

サステナブルな七尾湾の里海づくり 新たな観光コンテンツ創出に向けた取り組み

日本の重要湿地500にも指定される七尾湾の生態や環境を保護し、観光資源との連携を図るために、「里海ツーリズム計画」の策定を検討するプロジェクト。石崎漁港や能登島との地域連携を促進するためにも、サステナブルツーリズムにまちとして取り組むことを目指します。

■検討項目

- ・魚群探知機を活用した沿岸モニタリング
- ・七尾湾「里海ツーリズム計画」の策定
- ・七尾湾里海インタープリターの育成
- ・里海体験プログラムの試験実施



被災した石崎漁港



七尾牡蠣

復興プランの実現化に向けた社会実験プロジェクト

和倉温泉を“めぐる” 自動運転EVバスの実証実験

歩いてまたは周遊手段などでめぐることのできる温泉街を目指し、観光客も地域住民も利用できる新たな交通手段として、自動運転EVバスの実証試験に向けて検討を進めます。

- ・観光客のみならず住民が利用しやすい周遊ルートを実証
- ・周遊ルートと合わせた観光案内などの強化・連動した広報
- ・実証実験に関する住民周知や乗車体験会などの実施
- ・将来的な旅館のニーズに合わせたダイヤなどの調整や連携方策の検討

復興プランで描いた地域の思いを 実現するためのアクティビティ実証実験

復興プランで議論された海際のにぎわいづくりに向けた取り組みや、チャレンジショップなどの新しいにぎわいを生む取り組みを地域全体で応援し、地域内外へ復興をアピールするためのきっかけづくりを目指します。

地域との連携強化に向けた取り組み

和倉の復興のためには、地域で暮らす多様な人たちとの共創が不可欠です。そこで新たに交流・情報発信の拠点を設けるとともに、魅力的なイベントを定期的 to開催することで、誰もが楽しみながらまちづくりに参加できる仕組みを整えていきます。

復興まちづくり拠点「わくらす」での地域交流促進

和倉温泉の中心部に、復興まちづくりに向けた交流・情報発信の拠点を設けます。
地域みなさまが気軽に遊びに来ていただけるようなイベントも定期的 to開催していく予定です。

● 情報発信機能

復旧や復興のプロセスを可視化するとともに、
まちづくりに関する最新の情報を広く発信します。

● 交流機能

誰もが気軽に立ち寄れる交流の場をつくり、
復興にとどまらないさまざまなイベントを企画していきます。

● 共創機能

大学や企業との連携PJの拠点として、
また共創PJ全体の活性化を図る場として活用していきます。



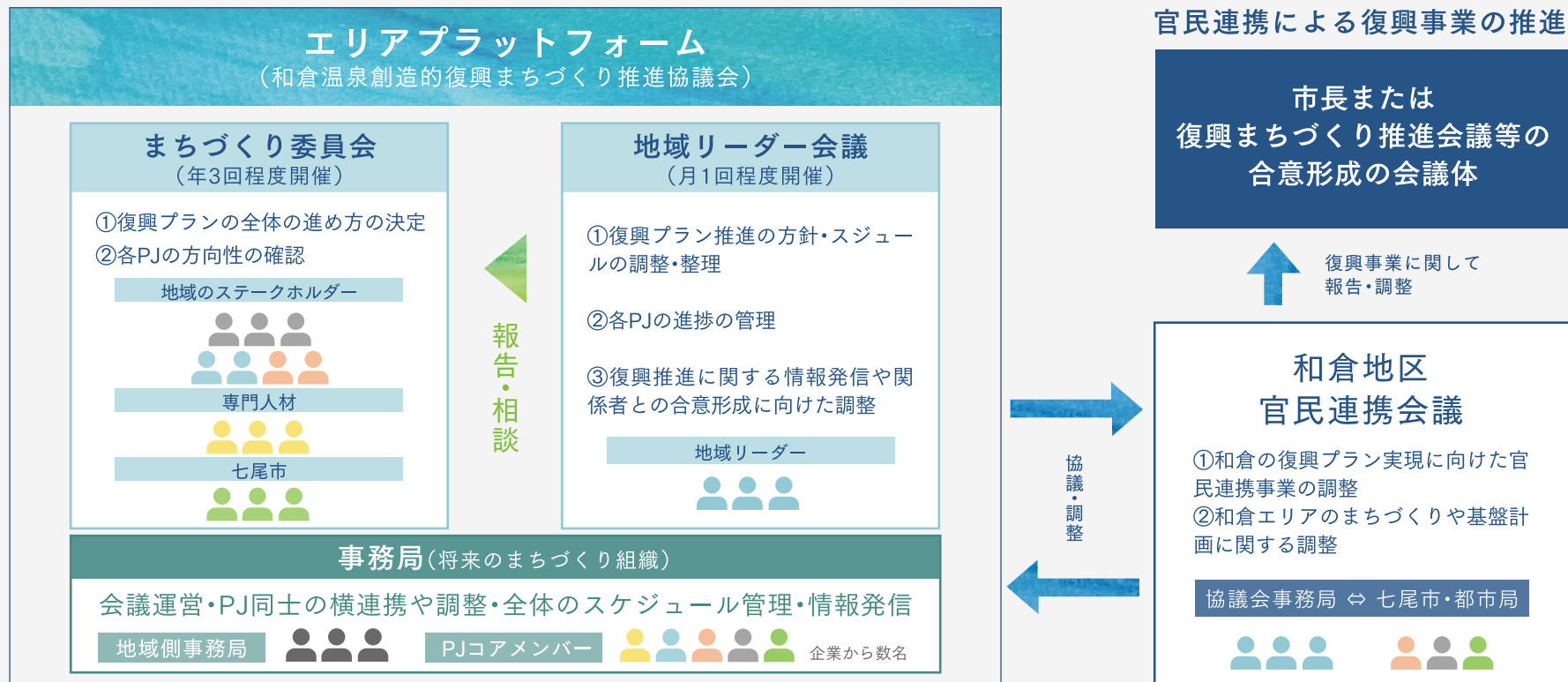
復興に向けた地域での取り組みの強化 / 復興イベントなどの開催



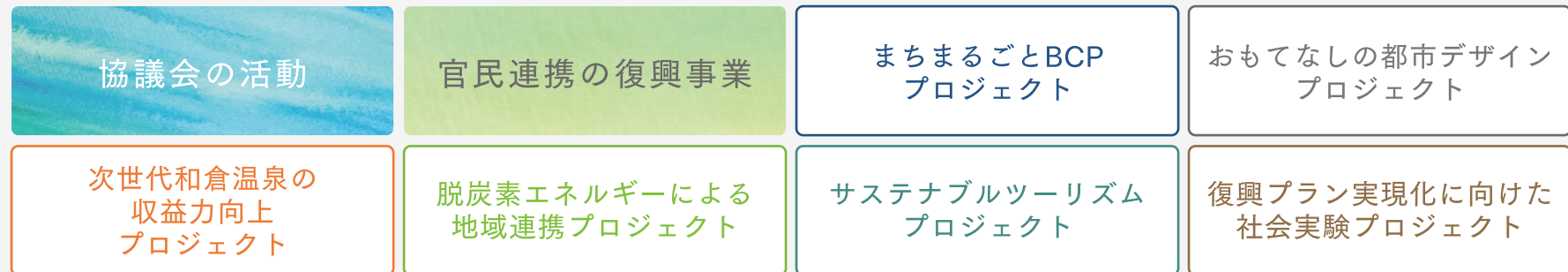
「和倉の復興」を地域の内外にアピールし、観光客を少しずつ呼び戻すために、旅館や商店連盟、地域が協力して定期的 toイベントを開催していきます。令和6年度には『復興めぐる市』や『和倉かき祭り』といったイベントが生まれ、多くのみなさまにご来場いただきました。

地域が一丸となったプロジェクトの推進体制

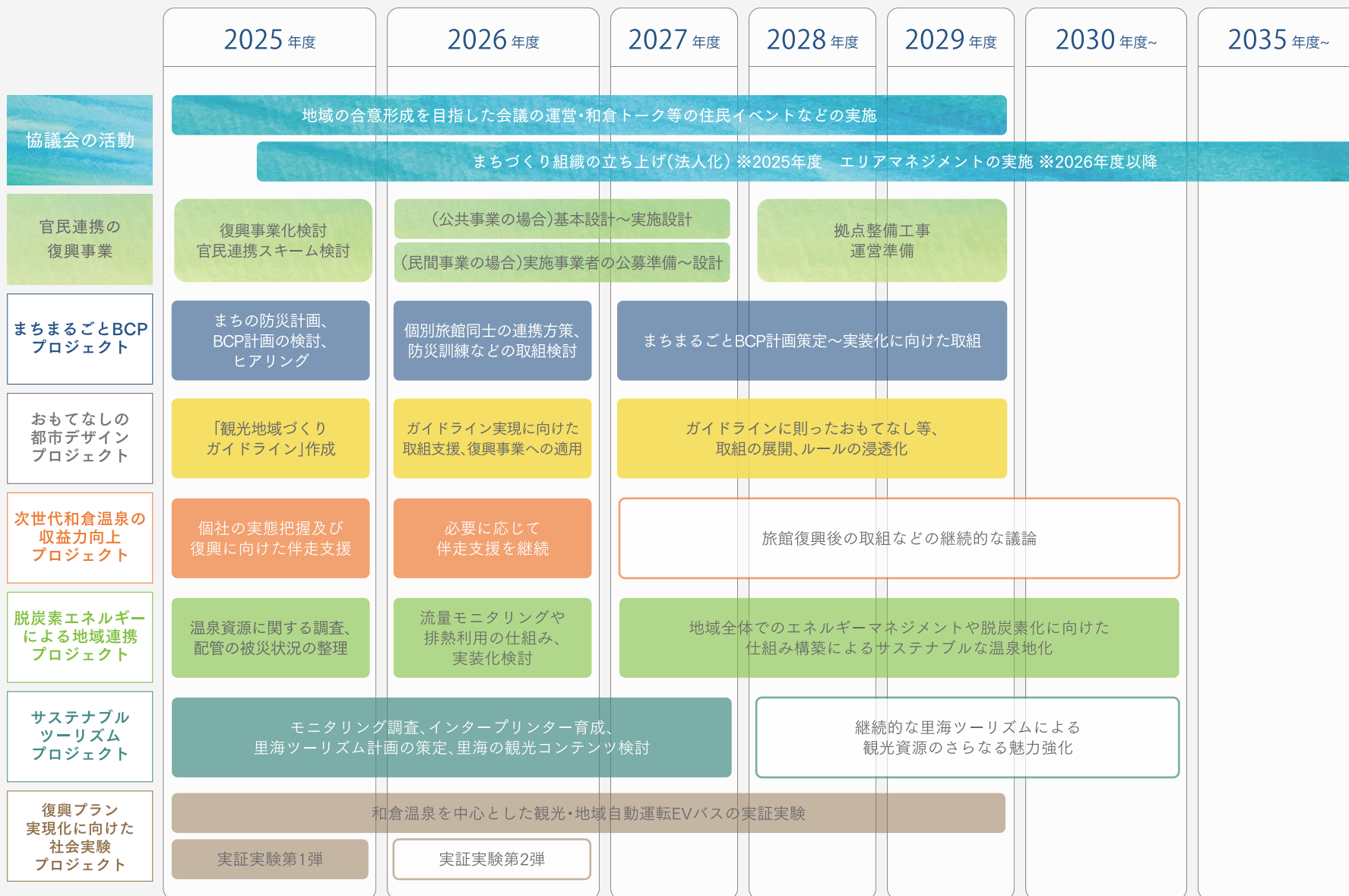
和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会に所属する地域リーダーと協力企業によって構成される各プロジェクトチームでさまざまなプロジェクトを推進します。また、和倉地区官民連携会議などを通じて七尾市などの関連機関とも協議しながら、具体的な復興事業の実現に向けて取り組みを推進していきます。



各プロジェクトチームによる和倉温泉創造的復興に向けた取り組み PJチームは、地域リーダー＋協力企業で構成する



プロジェクト実現までのロードマップ



5

課題と向き合う これからのまちのデザイン

復興まちづくりの推進に向けて、
和倉温泉を中心とした都市のデザインについても、
主要拠点の未来予想図を描きながら、具体的に検討を重ねています。

これからの都市デザインの基本的な考え方

地域の人々との対話を通じて、和倉の魅力を体感できる8つの主要拠点を抽出しました。それぞれの拠点を有機的につなげるルート(回遊動線)は、生活動線や観光動線として利用できるだけでなく、非常時には避難動線としての役割も果たします。こうした拠点とルートを、各地区の個性を踏まえた6つのゾーンに基づいて整備することで、ここできかない多様な体験を連続的に「めぐる」ことのできる都市デザインを目指します。

「めぐる」を実現するデザインアプローチ



ゾーニング

6つのゾーン

動線計画

歩行者

朝日と夕日を感じる回遊主動線

バス・一般車

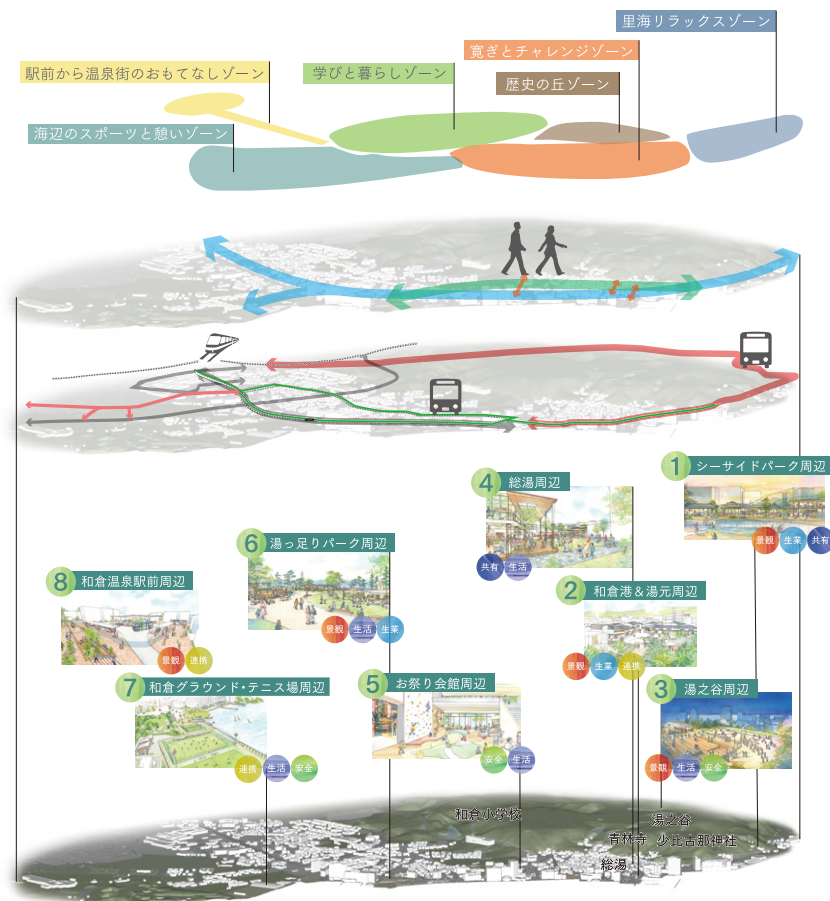
自動運転EVバスの社会実装
和倉西側バス停確保
災害時の代替ルート(西側動線強化)
周辺地域との連携

主要拠点

8つの主要拠点の抽出

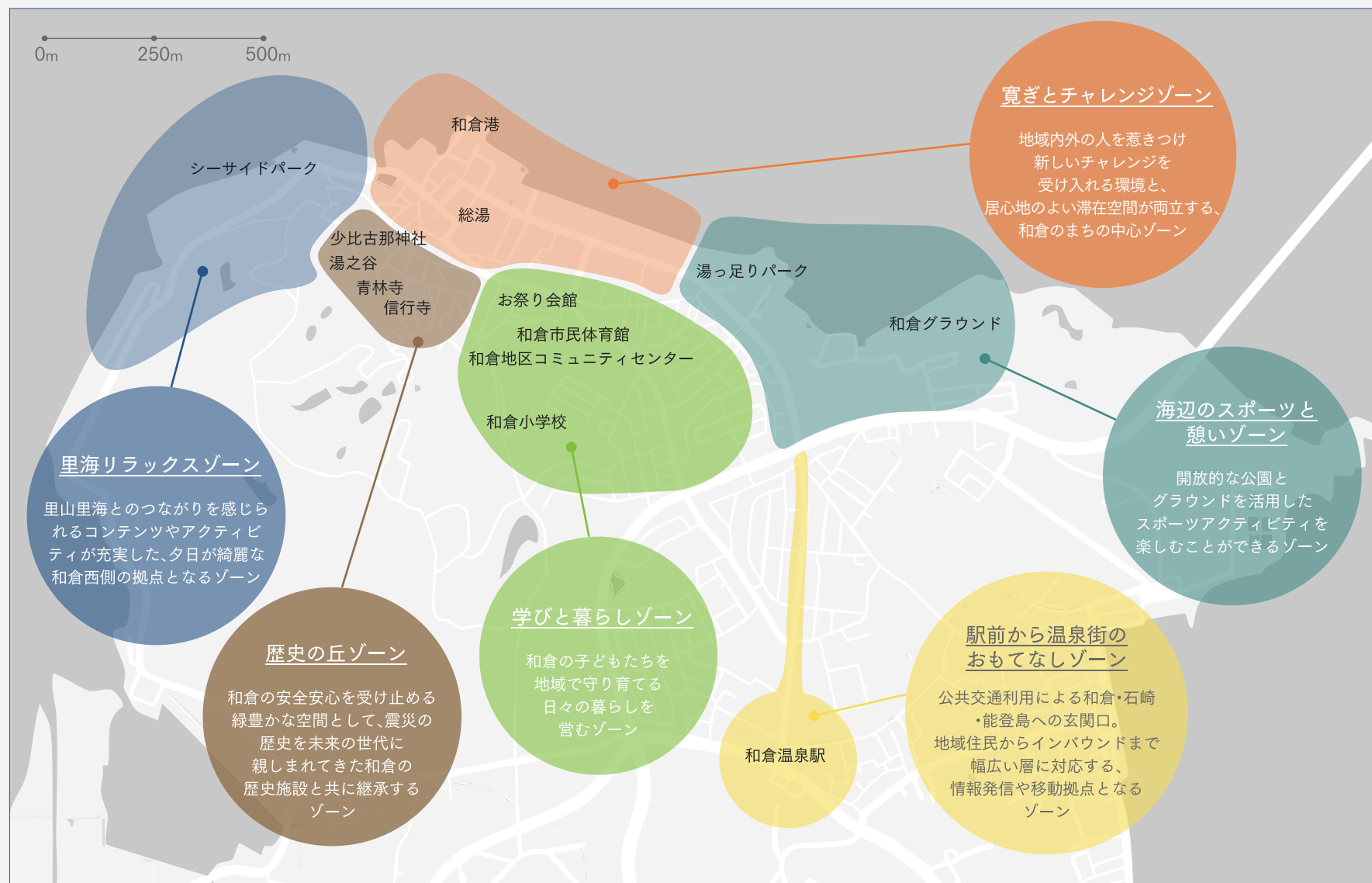
復興ビジョン基本方針と
主要拠点との接続

空間イメージ



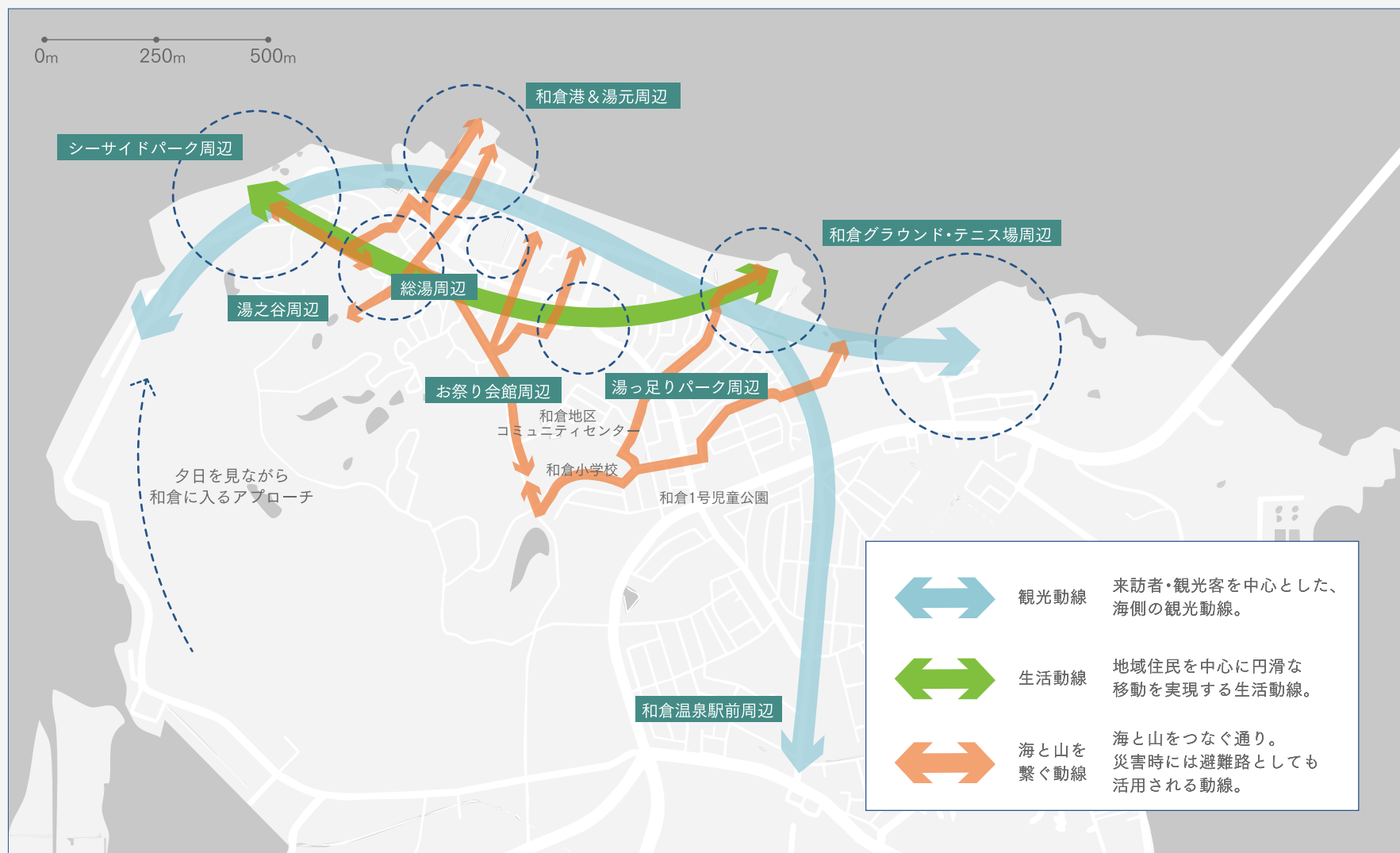
各地区の個性を活かしたゾーニングプランの検討

各地区の土地利用や旅館、商店、スポーツ・文化施設、公共施設などの立地状況から、和倉温泉周辺を6つのゾーンに区分。和倉で想定される今後の改修や再開発を見据え、現在のまちなみや主要施設の機能などを踏まえながら、それぞれのゾーンで魅力的な空間形成を目指します。



動線計画：歩行者 | 歩いてめぐれる和倉のまちを

各主要拠点を結び、朝日と夕日をはじめとした和倉の魅力的な風景を楽しむことができる歩行者動線を設定しました。東西を横断する海沿いの「観光動線」と、地域住民の円滑な移動を支える「生活動線」を、「海と山をつなぐ動線」が横つなぎしていきます。また、「海と山をつなぐ動線」は、災害時には和倉小学校や湯之谷などの山側への避難動線としての役割も果たします。



動線計画：一般車・バス | ニーズに応える交通動線の強化

1 まちなか周遊ルート

- ・自動運転EVバスの社会実装:移動ニーズへの対応と地域内のコンパクトな交通実現を目指します。
- ・西側拠点の再整備と共に新規に和倉西側のバス停確保を目指します。

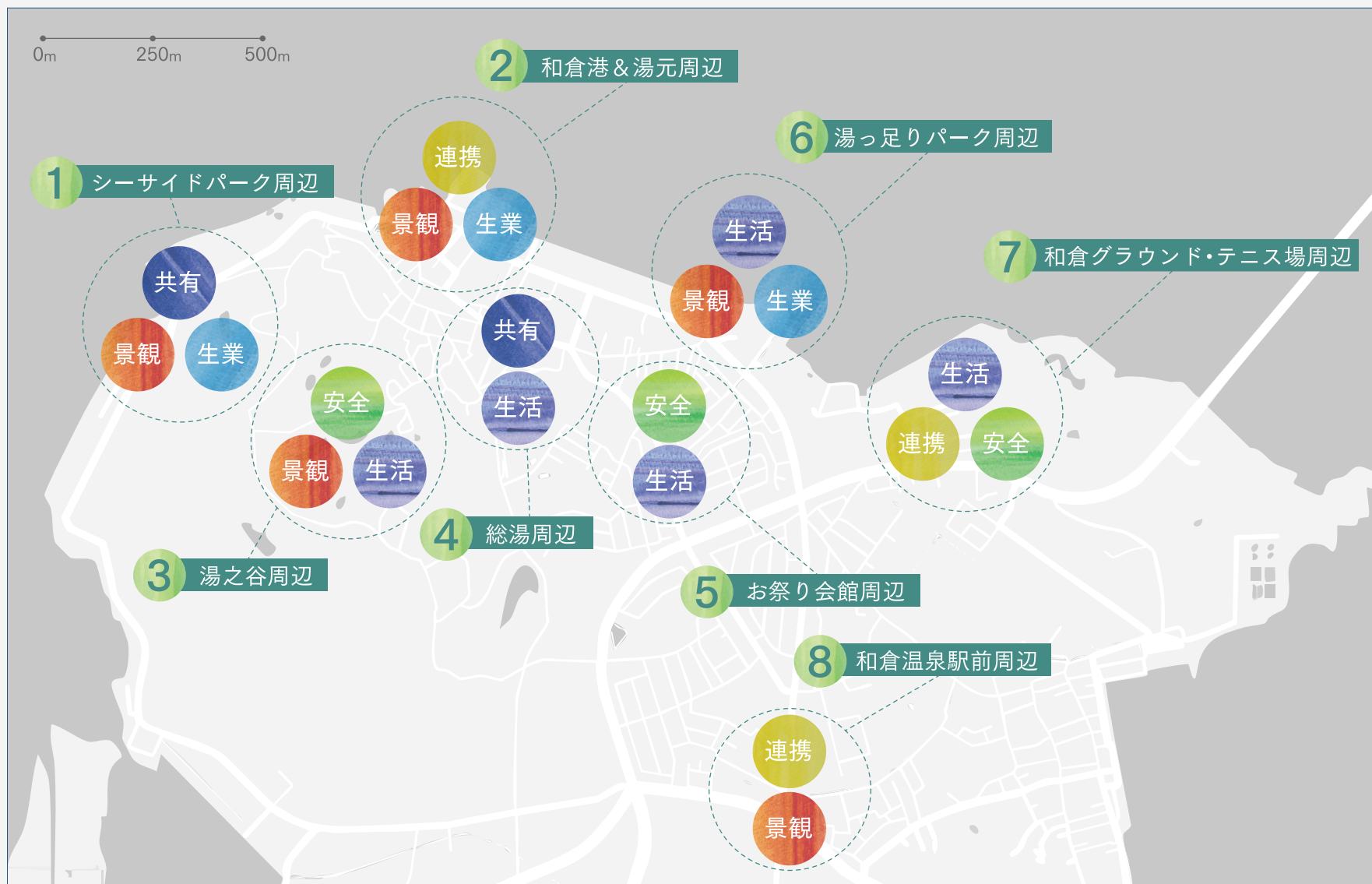
2 和倉環状動線強化

- ・災害時の県道の代替動線として和倉西側への幹線道路機能の強化を目指します。
- ・周辺地域との連携:石崎漁港などへの接続動線の強化。



8つの主要拠点の全体像

「和倉らしさ」を体験できる場所として、8つの主要拠点を設定しました。それぞれの拠点が有機的に連携することで、和倉温泉の魅力をさらに引きだし、地域の歴史と文化を次世代へと継承していきます。



各拠点の施設と機能



シーサイドパーク周辺

エネルギー・食材の地産地消
シーフードレストラン
里山里海自然体験・アクティビティ
コンベンション・ワーケーション



和倉港&湯元周辺

能登島&石崎漁協との連携
釣り・カフェ・ボートなどのレンタル
屋形船など新規事業



湯之谷周辺

オフグリッド避難施設
コミセン・イベント会場
湯之谷伝説・歴史散策
桜の名所・夜景スポット



総湯周辺

総湯・足湯
チャレンジショップ



お祭り会館周辺

子どもが集まる場所(屋内)
遊びと学び
飲食・ITルームなどの滞在機能



湯っ足りパーク周辺

ブルムナード・散策
海を感じられるカフェ・ベンチ
野外イベント
木陰の休息スペース



和倉グラウンド・テニスコート周辺

屋内サッカー場・テニス・3on3
屋内フットサル場
ランニングエリア、防災拠点



和倉温泉駅前周辺

わかりやすい駅前広場
夜も明るい駅前広場
和倉温泉までの幹線道路
駅拠点としての発信機能

※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

1.シーサイドパーク周辺

夕日を見ながら七尾湾の海の幸を楽しむ。 西側の観光の中心へ

さまざまなアクティビティを可能にする施設群を配置することで、里海の魅力を堪能できる新たなシーサイドを実現。海沿いのプロムナード・ボードウォークからは、和倉の美しい夕日が望めます。

景観

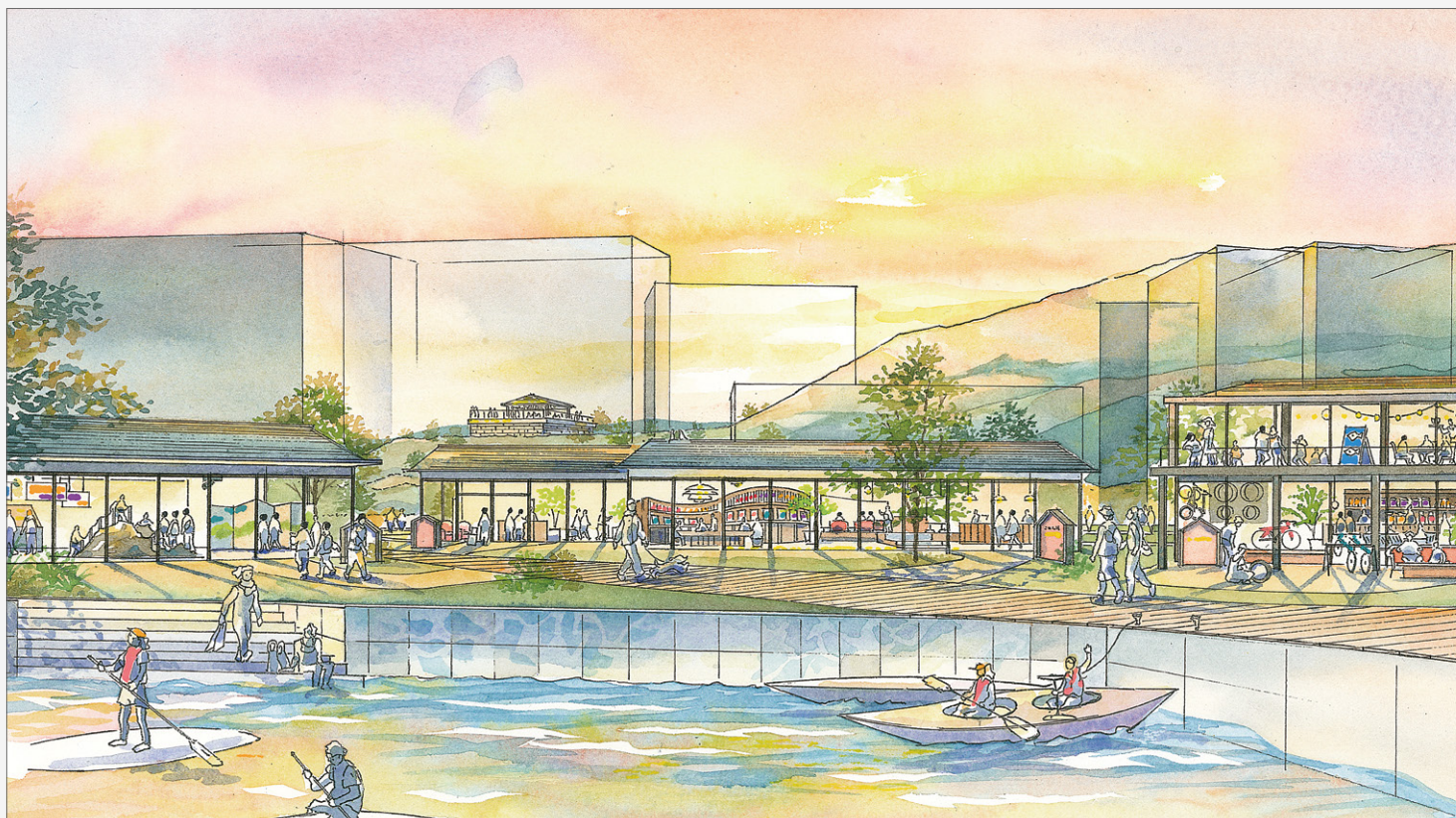
歩きたくなる
歩行者空間・栈橋の設え。
生成りの素材を生かした
自然建材の選定

生業

和倉の新しい滞在モデルに
対応する施設機能
(泊食分離など)

共有

自動運転EVバスの運行
エネルギーと食材の地産地消
サイクリングスポット整備



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

海沿いのボードウォークは
潮風が気持ちいい。
ここから眺める夕日は今日も最高！

里山・里海アクティビティセンターでは、
地域の外からきた人も
奥能登の自然について学べるよ！

能登の里海で育った魚介を
ふんだんに使った
シーフードレストランの料理は絶品！

2.和倉港 & 湯元周辺

海に面した和倉温泉を象徴。 能登島や石崎とつながる海の玄関口へ

弁天崎源泉公園・湯元を中心とした温泉街の核となる場所を未来へ引き継ぎ、新たな小商い施設や海を望む広場を設けることで、和倉港 & 湯元周辺を和倉の温泉文化にふれ、海のつながりを体験できる空間へ。「街の顔」となるエリアとして、歩行者空間の充実や旅館駐車場の集約にも取り組んでいきたいと考えています。

連携

観光コンテンツの
多地域連携。
周遊屋形船の運航

景観

夜間ライトアップ。
歴史的まちなみ形成のための
ガイドライン整備

生業

飲食店誘致。
温泉場を活かした
広場空間整備



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

海に見える気持ちのよい公園！
いろいろなイベントも
開催されているよ

旅館にチェックインしたら、
ぜひ和倉のまちを散策してみて。
能登の文化にふれられるお店があるよね。
和倉の源泉はここから湧いているんだ！

今日はたくさん魚が釣れた？
飲食店もたくさんあるから、
何かおいしいものを食べていってね！

3.湯之谷周辺

震災の記憶を引き継ぐ。 防災機能を強化したまちのコミュニティスペースへ

湯之谷周辺エリアは、震災の記憶や湯之谷伝説を次世代へと継承するまちのコミュニティスペースを目指します。和倉温泉と七尾湾を一望できる高台の展望スポットは、災害時に観光客を含めた大人数を収容できる避難所としても機能します。

景観

復興のシンボルとなる植樹。
七尾湾を一望する
展望スポットの整備

安全

避難訓練を兼ねた
南北軸の動線活用。
まちごとBCP計画の策定

生活

温泉文化を未来につなぐ
イベントの開催。
温泉文化教育



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

展望スポットからの眺めは抜群！
七尾湾を眺めていると、
なんだか癒やされるな

湯之谷伝説にちなんだ
お祭りも開催されるよ。
和倉温泉の歴史や伝統にふれてみて！

春になると震災復興を祈願して
植えられた桜が満開に。
震災の記憶もしっかりと
引き継いでいこう

4.総湯周辺

職住一体でチャレンジ！ 新たな価値が生まれる挑戦の場づくりを

総湯周辺を、和倉の関係人口を増やすにぎわいの拠点に。新規開業を目指す人が試験的に店舗を運営できる「チャレンジスペース」などを設けることで、少ない初期投資で和倉への移住を実現するための仕組みづくりにも取り組みます。

共有

観光DXを目指した情報発信。
自動運転EVバスの運行

生活

まちなか歩行動線の整備。
観光資源としての食文化強化。
チャレンジショップの来店



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

チャレンジショップは
ユニークなお店が多いから、
観光のついでに
ぜひ立ち寄ってみて！

ショップの前の広場では、
いろいろなイベントも
開催されているよ！

最近、和倉に移住してきた人が
増えてきた気がする！
なんだかまちが前より
にぎやかになった感じ

5.お祭り会館周辺

子どもも大人ものびのびと。 屋内遊びのできるお出かけスポットへ

お祭り会館周辺は、子どものための施設をさらに拡充。七尾市内外から訪れた家族連れが、落ち着いてくつろぐことができるスポットを目指します。観光客と地域住民との交流の場としても機能します。

安全

観光客／地元客を収容できる
避難所の整備。
自己水の確保。備蓄倉庫設置

生活

子どものための
遊び空間の整備。
シビックプライドを
醸成する祭り教育



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

今日は家族でおでかけ！
屋内に子どもの遊び場があるから、
晴れの日も雨の日も
安心して過ごせるよ

駅から温泉街まで歩くのに疲れたら、
お祭り会館で休憩してね

旅行でお祭り会館を訪れた人とも
お喋りを楽しめた！

6. 湯っ足りパーク周辺

海を見ながらのんびり過ごせる。 和倉のおもてなし空間へ

湯っ足りパーク周辺は、七尾湾や能登島を見渡せる海岸公園へと整備。既存の足湯施設なども活用することで「和倉にやってきた」と実感できる玄関口を目指します。さらにカフェなど等の休息・滞在施設なども設けることで、海沿いの交流拠点としての機能も強化します。

景観

海沿い歩行動線の整備。
七尾湾の景観に配慮した
植栽計画

生活

屋内で休める空間整備

生業

芝生広場における利活用。
イベント運営。
小規模飲食店の出店



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

チェックイン前に、
まずは海に見える公園で
のんびりしてみて。
足湯にもぜひ浸かってみてね！

朝日の昇る海を眺めながら
のんびり犬の散歩。
あ、今日はマルシェもやるんだ！

最近は、新しくできた
カフェで仕事をしよう。
景色がいいと、作業も捗る！

7.和倉グラウンド・テニス場周辺

スポーツを中心とした 新たな過ごし方が生まれる場所へ

屋内スポーツ拠点を整備することで、和倉グラウンド・テニス場周辺が七尾市を代表するスポーツ拠点に。県大会規模の大会を開催できるサッカー場とテニス場をはじめ、他地域からの合宿を受け入れられる宿泊施設、観光客が水辺のアクティビティを楽しめるレジャースポットなどの整備も進めていきます。

連携

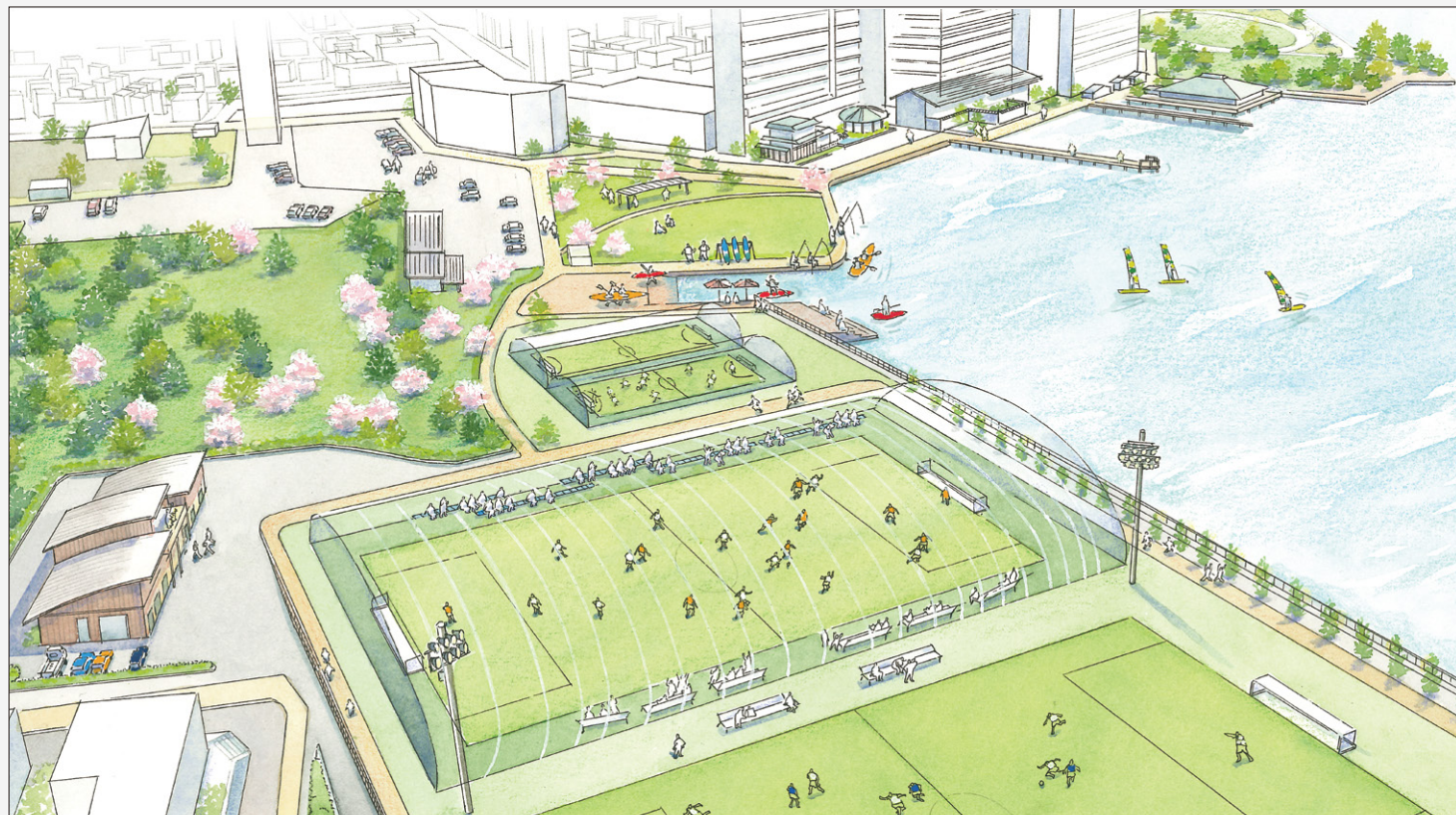
全国からの合宿を受け入れられる宿泊施設の整備。
学生同士の交流を促す交流拠点の整備

景観

夜間ライトアップ整備。
和倉運動公園への動線美化

安全

熱中症対策や災害対策の充実したスポーツ拠点の整備。
防災備蓄倉庫の整備



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

今日はサッカー場で、
高校サッカーの全国大会。
ちょっと応援しに行ってみよう！

県外から合宿にやってきた
学生さんたちが、
テニスの練習に励んでいる。
みんながんばれ！

水辺では、カヤックやサップも楽しめるよ！
和倉の自然を楽しんでいってね

8.和倉温泉駅前周辺

和倉のまちの玄関口として。 誰もが気持ちよく利用できる駅へ

駅の利用者の多様化が予想される和倉温泉駅は、その分、滞在空間を拡充。バリアフリー化やインバウンド対応、情報発信機能の強化も進めることで、温泉街の空気を感じながら、誰もが気持ちよく過ごせる駅前空間を目指します。

連携

観光情報以外の
駅舎機能の実装

景観

駅前広場の美装化

生活

勉強ができる駅舎内
フリースペース整備。
地域の人や観光客用の
サイクルスポット整備



※本パースはめざす計画イメージを表現したものであり、今後の検討・協議により変更の可能性があります

ちょっと未来の
地域の声

初めて来たお客様や
外国人のお客様にも対応できる、
多言語サインやまちのマップがあるから、
旅のはじまりも安心だね！

駅舎内のフリースペースでは、
今日も高校生たちが勉強している。
えらい！

誰でも使えるサイクルスポットが便利！
自転車があれば
気軽にまちなかを散策できるよ

能登の里山里海を
“めぐるちから”に。

和倉温泉



和倉温泉創造的復興プラン

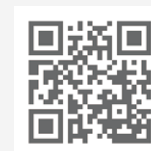
2025年6月発行(令和7年)

編集・発行元

和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会

E-mail: info@wakura.org

Website: <https://wakura.org>



本書の内容は、2025年3月時点の情報に基づいて作成されています。
本書の全部または一部を無断で転載・複製することを禁じます。引用等を行う場合は、出典を明記してください。
掲載されている内容についてご不明な点がございましたら、上記までお問い合わせください。

